

# 平成31年度学校自己評価システムシート (県立越生高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人の長所を伸ばし、社会で活躍できる「人財」の育成を目指す学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びによる基礎学力の充実と専門的な能力の向上 2 豊かな心と自主的・自立的な態度の育成および進路意識の向上による進路希望の実現 3 保護者や地域と連携した安心・安全な開かれた学校づくり
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ・少人数授業等での効果があり、落ち着いた環境で学習ができているが、理解度の低い生徒もいる。 【課題】 ・「分かる喜び」「できたという達成感」を与えられるような授業の工夫に取り組むとともに、個に応じたサポートをさらに進めていく。	○学びの質の向上  ○学習環境の整備と学習意欲の醸成	①自主的な取組を促す授業を目指す授業改善を推進する。 ②教員同士の授業観察によって、授業改善を図る。 ③教科や学年と連携し、資格取得を推進する。  ①学校全体で生徒の情報を共有する機会を設け、個にあわせた指導をする。 ②考査前の課題や補習などを効率よく実施する。	①教員が授業改善に取り組むことにより、生徒の学習時間が増加したか。 ②生徒の授業に対する、満足度が増加したか。 ③資格取得を目指す生徒と合格者数が増加したか。	●学びの質の向上に向けた取組 ①授業の工夫を心がけている教員は9割を超えているが、生徒の学習時間は昨年並みであった。 ②授業のルールは9割程度守っているが、理解度は8割弱である。 ③資格取得を推進する教員は7割を超え、受検者の延べ人数は多いが、合格者数は増加していない。  ●学習意欲の向上を目指す取組 ①授業の取組に関する研修会で情報交換や共有ができた。また、補講等で個に応じた指導ができた。 ②4科目以上の欠点保持者は各学年ともに減少した。	B  B	○授業規律について、一部の生徒が守ることができていない。教員間で共通理解を図って実践していく。 ○教員が参加しやすい授業見学を設定して、継続的に授業力向上に向けて意識を高めていく。  ○今後も資格取得を推進していく必要がある。合格者を増やすための補講等の実施を検討する必要がある。
2	【現状】 ・生徒指導面では、ネットトラブル等の対人関係でのトラブルが多い。 ・進路指導において、個々の生徒の良い部分を引き出しながら、自己肯定感を高められている。 【課題】 ・問題行動の未然防止と基本的生活習慣の確立を促し、進路に対する意識を向上させ、更に自己肯定感を高めていく。	○規範意識の向上  ○進路意識の向上と進路実現	①ネットトラブルを防止するために、早い時期にネットトラブル講演会を開催する。 ②生徒自らが発表する場や、仲間を取りまとめる場面をつくり、生徒に自信をつけさせる。 ③日頃から校内の美化に努めるよう全校に働きかける。  ①職業適性検査、SP12基礎テスト、クレペリン検査等を行い、その検査結果を活用して、個に応じた指導に活かす。 ②JSTの有効活用により生徒の自己肯定感をさらに高める面接指導を展開する。 ③「進路の手引」を有効活用する。	①ネット上のトラブル等が減ったか。 ②白梅祭、各種委員会において、活発かつ自主的に生徒が活動したか。 ③部活動が活性化されているか。 ④校内美化を向上させ、生徒・教職員に安全な生活環境を提供することができたか。	●規範意識向上を目指す取組 ①ネット上のトラブル等は、昨年並みであった。 ②白梅祭、各種委員会において自主的な活動ができた。 ③運動部の加入者が昨年度の78名から101名に増えた。 ④各掃除場所の清掃用具の充実を図り、掃除しやすい環境を整え、校内美化意識を高めた。  ●適切な進路実現への取組 ①各種検査の結果を、個人面談資料として活用した。 ②進路面談及び面接指導を中心にJSTの有効活用ができ、自己肯定感も高められた。 ③「進路の手引き」は各学年とも計画的に有効活用できた。	B  A	○これまで散見していたネットトラブル上における人間関係のトラブルよりも、他の問題行動が増えている。規範意識の向上に引き続き取り組んでいく。 ○昨年度よりは、部活動が活発になっているが、更にきめ細かい指導を行い活性化していく必要がある。 ○JSTの活用により、生徒の特性に合った指導及び自己肯定感を高めていく。また、企業訪問(開拓)の面では計画的に取り組んでいく。
3	【現状】 ・教育活動に保護者等の協力があり、地域の方の学校行事でのふれあいが積極的になってきている。 ・生徒募集に力を入れているが、志願者数は微増であった。 【課題】 ・HP等による情報発信を積極的に行い、保護者や地域への理解を更に深めていくとともに、志願者数の増加を図る。	○教育活動の積極的な情報発信  ○志願者数の増加	①HPを活用しリアルタイムな情報発信を行う。 ②中学校訪問および学校説明会を全教員で分担し、本校の理解を深める。 ③50周年行事に向け実行委員会を立ち上げ、具体的な方策を提案する。  ①学校説明会の内容を見直し、リピーター数・新規参加者の増加につながる企画・運営を行う。 ②進学フェアや、進路相談会へ積極的に参加することで本校の良さを中学生へ丁寧に説明する。 ③学校説明会等で部活動の活動状況をPRする。	①HPの更新回数が増加したか。 ②学校説明会・学校行事等に対する認知度の上昇と教育活動の理解を深められたか。 ③50周年行事に向けた具体的な計画を立案できたか。	●本校の理解の推進 ①HPの更新回数は微増し、更新する教員の数が増えた。 ②HPの情報発信、学校案内や白梅通信等の配布によるPRにより、本校の理解を深めた。 ③周年行事向けには実行委員長と実施日程について検討が進められた。  ●志願者数増加を目指す取組 ①第1回目の学校説明会は校外(坂戸文化会館)で実施した。 ①学校説明会のべ参加人数は昨年より50名程度増加したが、リピーター数は昨年並みであった。 ②進学フェア・進路相談会は合わせて50名程増加した。 ③学校説明会時に、部活動を見学できるようにしてPRをした。	A  B	○HPの更新されているページと、更新があまりされていないページがある。研修会等を行いHPに携わる教員数を更に増加し、情報発信の更なる充実化を図っていく。 ○今年度は独自に校外での学校説明会を実施し、参加者を増やすことができていく。来年度は、他校との合同説明会等の検討を進めていく。 ○周年行事について、具体的な内容を決定していく。

学校関係者評価
実施日 令和2年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して授業に取り組んでいる雰囲気が生徒たちから伝わります。また、中学校時代で理解できなかった内容についても、高校の学習の中で理解できるようになってきています。少人数授業の成果だと思っています。</li> <li>・資格取得については、生徒の進路のためにも、意識を高めさせて受験者増加と一人でも多く合格者を増やす対策講座等があるとよいと思います。</li> <li>・ネットトラブル、スマートフォンの危険性について保護者、生徒への注意喚起が必要だと思います。特に、保護者への注意喚起を行うことによって家庭でも指導してもらえると良いと思います。</li> <li>・部活動の指導について、多少ハードルを下げてでも部活動に参加する生徒を増やすことと、入部した生徒が辞めていかないような工夫が必要だと思います。</li> <li>・通学路でごみが捨てられていることがあります。生徒が捨てたとは限りませんが、規範意識の面も含めて校内・校外ともに美化運動に取り組んで欲しいと思います。</li> <li>・HPは情報発信という意味でとても重要です。更新されていないページがあると残念ですので、色々なページでの情報発信を充実されるとよいと思います。</li> <li>・生徒募集について色々工夫されていて良いと思います。</li> <li>・越生町文化祭や中央公民館での作品展示は、越生高校のPRとなっていると感じています。来年度も実施して欲しいです。</li> <li>・台風19号のときには、格技場と体育館に300人程度避難させてもらいお世話になりましたが、地域からトイレの洋式化について要望がありました。</li> </ul>